

テーマ：防災意識の高揚 対象：地域住民 主催：広島市温品公民館

# F-④災害に強いまちづくり

地域を学ぶ		地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	--	---------	---	-------	---

## 1 事業プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
平成 30 年 2 月～	広島市温品公民館	○防災学習会（対象：防災士） ①防災フェアの計画 ②実習・研修 「避難所運営ゲーム」「防災すごろく」「非常用持出袋詰め」等、紙芝居「温品水害碑物語」の作成 ③講義「これからの災害にどう向き合うか～地質学的に見た豪雨災害の特徴と防災のあり方～」 講師に広島県自主防災アドバイザー越智秀二氏を招き、スキルアップを図る。 ④避難所運営訓練の計画
平成 30 年 9 月 8 日(土) 令和元年 9 月 8 日(日)	広島市温品公民館 広島市立温品小学校 (グラウンド)	○防災フェア（対象：地域住民） 「防災士の学習成果の還元・住民の絆づくり・地域防災力の向上」のための事業（防災クイズラリー、避難所運営ゲーム、防災すごろく、防災紙芝居、土石流発生装置、震動体験、浄水装置、ちびっこ消防士体験、消火器体験、防災食づくり等）
令和 2 年 2 月 7 日(金)	広島市温品公民館	○女性のための防災講座(対象:温品女性会会員 20 名) 紙芝居「温品水害碑物語」の上演、「女性の視点で避難所運営ゲーム」の演習
令和 2 年 4 月～	イベント会場等	○「防災カードと命の袋」の配付
令和 2 年 9 月 13 日(日) 令和 4 年 2 月実施予定	広島市立温品小学校(体育館) 広島市立上温品小学校(体育館)	○避難所運営訓練 (対象：防災士、町内会長、自主防災会長等) 地震を想定した避難所運営訓練



対象	地域住民（子供から高齢者まで）
経費	指導者講師料(約 2 万円), 防災フェア(約 8 万円), 避難所運営訓練(約 3 万円) 命の袋(約 10 万円)
連携先	温品学区・上温品地区自主防災連合会, 地域団体(町内会, 女性会, 社協, 体協, 老年会等) 国土交通省中国地方整備局, 東消防署温品出張所, 東消防団女性消防隊等

問合せ先	広島市温品公民館
	〒732-0033 広島市東区温品 7 丁目 8-19
	電話：082-289-0256 ファクシミリ：082-289-0256

## 2 事業設定の理由（学習の目的）

○温品・上温品地域は、呉娑々山や高尾山などがあり、府中大川（温品川）が流れ、田畑も点在し、豊かな自然環境に恵まれている。その反面、大雨時には川の氾濫の危険性が高く、多くが土砂災害警戒区域に指定されている。平成26年の広島豪雨災害を契機に地域の防災意識が高まり、平成28年以降、防災士が年々増加し、その防災士の活動の場が求められており、防災士のスキルアップや学習成果の還元を図る。また、地域の高齢化率が30%を超えているため、地域住民の絆づくりと地域の防災力の向上を図る。

## 3 学習目標

○地域の防災士対象の防災学習会を通して、防災の知識・技能等を高めることができる。  
○地域住民同士の関係づくりを通して、お互いの気持ちを伝え合うことができるようになる。  
○地域住民同士のふれ合い活動を通して、地域を守っていこうという思いが芽生え、連帯感や防災意識を高める。

## 4 事前に必要な知識や準備物

○地域の防災士にイベントで必要となるパネルの作成等を依頼する。  
○チラシを作成して町内会等に配付するとともに、公民館だよりやホームページに掲載して地域住民に周知する。  
○小学校の体育館やグラウンドの使用について、使用許可を得る。  
○協力機関（消防署等）と事前に打ち合わせを行い、実施内容等を確認する。  
○自主防災連合会が行う「区役所担当課への助成金申請書作成」に係る指導等を行う。

## 5 留意点

○参加者に事故やケガがないように安心・安全な運営を呼びかける。  
○新型コロナウイルス感染症対策として、出入口で検温、消毒、記名等を行う。  
○参加者からイベントの内容等について感想や要望等を聞き、次年度に生かしていく。

## 6 成果

○公民館が軸になることで、個々に防災の必要性を感じていた地域住民の力を結集し、連携することができ、地域全体で取り組む体制づくりができた。  
○防災フェアや防災士の積極的な活動で主体的な学びから地域住民の防災意識を高めることができた。  
○防災士の知識と技術が向上し、地域リーダーとして育成することができた（高齢者や子供対象の地域行事等さまざまな場で活動し、防災意識の向上に貢献中）。  
○防災士を地域リーダーとしての活動を通して、地域の声を直接聴くことで新たな課題を見つけ、その課題解決のために活動の場を広げていく学びと活動の循環が生まれている。

## 7 課題

○防災士だけでなく、より多くの地域住民が主体的に取り組むような事業を展開する。

## 8 今後に向けて

○土砂災害等の警戒区域の住民と区域外の住民との防災に対する意識の格差を埋め、社会的弱者等すべての人が安心して暮らせる災害に強いまちづくりのための事業を今後も実施していく。  
○防災活動を通じて地域に内在する課題を浮き彫りにし、解決策を共に考えていけるような事業を展開する。  
○オンラインによる学習機会の提供等を検討し、あらゆる人が主体的に学びやすくなる場づくりを進めていく。